

RILAS 研究部門「境界の溶解と再編をめぐる学際的研究」主催
部門発足記念イベント

「文キャン教員、ワールドカップを語る!？」報告書

- ・日時：6/19(火) 18:15-19:45
- ・場所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館 16階第10会議室

〈話題提供〉

1. 金敬黙：「国際スポーツにみる国籍とエスニシティ」
2. 宮田裕光：「スポーツと武道—東西の”境界”」
3. 豊田真穂：「ジェンダー論的にワールドカップ／近代スポーツを語る」
4. ピタルク・パウ：「サッカーと文学」



人種、エスニシティ、国籍、性別、性的指向、障害の有無、経済的格差など、人々のあいだに存在するさまざまな差異をふまえながら制度や規範を構想していくためには、人々のあいだに存在する境界の成り立ちと変化を丁寧につく上げ、研究していくことが必要である。このような研究を戸山キャンパスの研究者たちが連携して進めるために、「境界の溶解と再編をめぐる学際的研究」部門(通称「ボーダー研」)は発足した。

ボーダー研はまた、学問の世界と市民社会のあいだの「境界」にも目を向け、両者の橋渡しをすることも目指している。そこで、当部門の発足イベントとして、2018FIFAワールドカップを部門メンバーの問題関心と研究方法で料理してもらい、みんなで味見をしてみるトークイベントを開催した。W杯をめぐるどのような境界に着目すれば、もっと面白くW杯を見ることができるのか。授業や講演会の堅苦しさを離れて、戸山キャンパスの研究者たちと一緒に語り合う機会を設けた。

本イベントには、学内外からおおよそ15名が来場し会場を盛り上げた。そして、登壇者と参加者の間に「ボーダー」を作らないために、会場では「先生」という敬称はやめることとした。最後に、このような企画はより知らせるべきだという話があったので、次回は教員ロビーの各教員 box にチラシを投函など、周知の方法の改善を図ることとした。